

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 5 部門第 1 区分
【発行日】 令和 7 年 1 月 9 日 (2025.1.9)

【公開番号】 特開 2023-102223 (P2023-102223A)
【公開日】 令和 5 年 7 月 24 日 (2023.7.24)
【年通号数】 公開公報 (特許) 2023-137
【出願番号】 特願 2022-2661 (P2022-2661)
【国際特許分類】

F 0 1 N 13/00 (2010.01)

F 0 1 N 13/08 (2010.01)

【F I】

F 0 1 N 13/00 B

F 0 1 N 13/08 Z

【手続補正書】

【提出日】 令和 6 年 12 月 25 日 (2024.12.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 特許請求の範囲

【補正対象項目名】 全文

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

車両の床下スペースに設置される排気路構造であって、
排気管と、途中に配置されるサイレンサーとから排気路が構成され、
前記排気路の全体の下端が略水平に延在され、
前記排気路の下側に、前記排気路の後端部まで延設され且つ前記排気路の後端部に向か
って底部が下方に漸次傾斜する傾斜排水路が形成され、
前記サイレンサーの内部から前記傾斜排水路に凝縮水を導出する毛細管部が設けられ、
前記毛細管部が、前記サイレンサーの底板の後端付近から前記サイレンサーの下流側の前
記排気管の内部を通り、前記下流側の排気管から前記傾斜排水路に導かれるように湾曲し
て設置されていることを特徴とする排気路構造。

【請求項 2】

前記サイレンサーの前記底板が、前記毛細管部の凝縮水の導入端部に向かって下方に傾
斜して形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の排気路構造。

【請求項 3】

防食処理が施された筒状保持材に毛細管現象を発生させる毛細管材が内装されて前記毛
細管部が形成され、

前記筒状保持材の内径が前記毛細管材の外径より大きく形成され、

前記筒状保持材の内部に設けられた係止部で前記毛細管材が係止保持されていることを
特徴とする請求項 1 又は 2 記載の排気路構造。

【請求項 4】

前記筒状保持材が、熱伝導率が $16 \text{ W/m} \cdot \text{K}$ 以上の高熱伝導性を有することを特徴と
する請求項 3 記載の排気路構造。

【請求項 5】

前記排気管と前記傾斜排水路との間に連通されて凝縮水を前記排気管から前記傾斜排水
路に排出する排水孔が形成されていることを特徴とする請求項 1 ～ 4 の何れかに記載の排
気路構造。

【請求項 6】

前記排気路の全体が略水平に広がる扁平形状で形成されていることを特徴とする請求項 1 ～ 5 の何れかに記載の排気路構造。

【請求項 7】

前記排気路と前記傾斜排水路とが耐熱プラスチックで形成されていることを特徴とする請求項 1 ～ 6 の何れかに記載の排気路構造。

10

20

30

40

50